



### CONTENTS

「ぷれいす東京20年に寄せて」.....	01
第28回日本エイズ学会学術集会 @大阪 感想文.....	02
ネスト・プログラム.....	03
部門報告 (2014年10~12月).....	06

ぷれいす東京設立20周年記念巻頭シリーズ 第4弾

## 「ぷれいす東京 20年に寄せて」

兵藤 智佳

大学で私の授業を取っている学生が、授業が終わった後にそっと寄ってきた。「僕、先週、保健所で HIV 検査を受けたんです。それで、もし自分が陽性だったらどうするか想像してみたんです。そしたら、なんだか怖くなってネットを見てたら『ぷれいす東京』というところを見つけて…。先生、知ってますか？」と言ってきた。耳にはピアスが光るけど、まだ、にきびも残る童顔の彼は19歳。つまりは、ぷれいす東京が生まれたあとに生まれたということだ。「知っているけど、何が具体的に知りたい?」「もし、陽性だったとしたら、僕が行っても大丈夫かとか…」「もちろんだよ。スタッフにはゲイの人もいるし、誰でも行けるよ」と伝えたら、ちょっと戸惑いつつも、安心した顔で帰っていった。その後姿を見送りながら「大丈夫。ちゃんとぷれいすのみんなはあなたを支えてくれるから」と心の中で話しかける。20年前に誕生したぷれいす東京の存在によって、今、背中を押される人がこんな風に私の日常の中にいる。HIV と生きることが当たり前ではなかった時代を経て、「そういう組織がそこにあり続ける」という事実が、たくさんの見えない誰かを支えている。そのことがとても嬉しい。

思えば、ぷれいす東京にかかわった20年前は、私は血気盛んな大学院生だった。「この社会はどこか間違っていて、若い女性がセックスをちゃんと語れないのは間違っていて、HIV に感染した人が差別されるのは間違っていて…」と鼻の穴を膨らませながら思っていたら池上さんに出会った。「そう思っているなら一緒にやろう」と言われて、気がついたら20年もたった。でも、私が今、思っていることも池上さんがやろうとしてきたこともおそらくそんなに変わっていない。変わっているのは、私が池上さんに言われた「性は多様でいいんだ」という言葉を、今は私がぷれいす東京ができてから生まれた若者たちに言っていることくらいだと思う。大事なことはこれまでもこれからもずっと同じだ。

そして、そんな言葉に支えられて私自身もこの20年を生き延びてきた。「一人ひとりが違っていいんだ」「弱くてもそれでいいんだ」「みんなが何かを背負ってもう一緒に生きているんだ」。全部、ぷれいす東京からいつも聞こえてくる声であり、そこにかかわる人たちが大切にしてきた世界であるように思う。私もそういう価値を伝える仕事がしたいと思ってきた。

そんな私は、どうしようもなく寂しくて自分の手首を傷つける女子大生には「あなたがただ居てくれることが私には大事なんだよ」と語りかける。2011年に福島原発事故で被曝した学生には、「自分の痛みを自分の言葉で語っていいんだ」とその一歩を押す。HIV とは直接関係なくても、そういう今の仕事を支えてくれる大事なメッセージは、全部、ぷれいす東京から学んできたのかもしれない。そして、実は自分が肯定されてきたのだと思う。

でも、世の中はどれもそういう言葉や世界を大事にしない方向へ行っているような気がする。戦争がよいとされて、強いものが勝ち、弱いものが排除される力はどんどん大きくなる。社会的なマイノリティの当事者が声をあげることのできる機会も場も増えているとは思えない。なんだか実態のない「勝ち組」といわれる空虚なものに必死にしがみつこうとする。そんな世の中では「そういう世の中だからしょうがない」と何が正しいのかを感じる感性も奪われていく。そして、自分を表現する言葉はどんどん失われていき、聞こえるべき声は聞こえなくなる。

そんな中でこそ、ぷれいす東京に集う「聞こえない声を聞いている人の声」が大事なのだと思う。私を生き延びさせてくれた価値がそこにある。そのことは多くの人にとってもきっと意味があるはずだ。だからこそ20年という時を経て、変わらないものが続いていくことを願いたいし、そのための力になりたいと思う。

# 第28回日本エイズ学会学術集会 @大阪 感想文

2014年12月3日(水)~5日(金)に第28回日本エイズ学会学術集会が大阪市で開催され、ぶれいす東京からも演題発表、シンポジストや座長など、さまざまなかたちで参加・報告がありました。ぶれいす東京にゆかりの深い5名からの感想文をお届けします。

## 「つながりを感じる」

福原寿弥

第28回日本エイズ学会学術集会が、「Cureは可能か？」というテーマのもと、大阪で開催されました。

恒例の「治療の手引き」のシンポをはじめ、臨床系のセッションの多くで、ART(Antiretroviral Therapy)の進歩が陽性者の高齢化、治療の長期化をもたらし、様々な慢性合併症を起こしうるとの話題を扱っていました。慢性腎臓病や脂質異常症、糖尿病に骨粗鬆症など、他科受診の増加が予想され、そういった専門内科や精神科などの“他科連携”というよりもっと積極的な“併診”が、現場に広がってきているようでした。

しかも、地域におけるHIV透析ネットワークの構築や、陽性妊婦に選択的帝王切開とウイルス検出限界以下での経膈分娩のどちらを選ぶか、性感染症クリニックにおけるHIV疑い病名での抗体検査の保険査定問題など、他学会とのコラボ企画においても、各演者の熱意が伝わり、より一層のつながりを感じました。

そしてそれは介護の分野へも広がり、男性・単身・高齢陽性者の増加が見込まれるなか、受け入れの準備や経験を発表するポスターも複数見られました。在宅療養事例の支援の輪のなかに、月に一回家賃の集金に行き、顔色を見てきてくれる不動産屋さんが入っているというシンポの発表には、嬉しい驚きを感じました。

本題の「Cure」については、センダイウイルスベクターによるエイズワクチンの開発など、一般公開されていた予防財団の成果発表会に、大きな期待を抱きました。是非その成果は日本からと、基礎研究者がスーパーマンに見えました。

今回の学会では、医療や福祉の現場での声を今まで以上に、本音の部分も含めて聞けたような気がしました。我々NGOでも、様々な変化のなか、何を目指し、何をなすべきか、皆様の声により一層耳を傾けていかなければと思いました。

## 「陽性者としてのエイズ学会」

佐藤郁夫

第28回日本エイズ学会は大阪で行われた。僕はシンポジウム「HIV感染症における社会的排除」で発表した。HIVは薬が進歩して、治療すれば長生きができる時代になった。しかし職場や地域といった生活の場面では、まだまだHIV陽性者の受け入れは進んでいない。そのことを自分の経験から報告した。僕は2009年に人工透析を開始。陽性者を受け入れてくれる透析病院探しに困難を極めた。やっと見つかった病院でも、受け入れるかどうかのアンケートが回ったという。透析初日、担当のスタッフは看護師長などのエキスパート。それでも緊張感が漂っていた。

5年経った今感じることは、陽性者の存在が「特別」から「当たり前」に変化したこと。スタッフの誰もが当たり前接してくれる。不安や怖いといった感情は、たったひとりの存在があれば変えられるのだと思う。依然として拠点病

院以外の医療機関では診療拒否されることがある。歯科、一般病院の外来、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、整形外科、旅行透析などで、HIVを伝えた経験がある。薬の飲み合わせや、(医療者と自分に)治療で感染を防ぐため必要だと感じる。また陽性者の存在を伝えたいという思いもある。

初めてエイズ学会に参加したのは8年前。陽性者のためのスカルシップが始まった年だ。あの頃はNPOの陽性者スタッフの存在しか見えなかった。今では、あちこちで積極的にかつ堂々と発言する陽性者がいる。この流れがいつか、地域や社会に広がっていくことを期待している。

## 「はじめまして」と「いろいろあっていい」

仲倉高広@大阪医療センター臨床心理室

私は心理の某学会で引きこもりの臨床心理士と言われたが、HIV感染というのは、引きこもりたいのに「はじめまして」を強いるなあと思う。第28回学会のシンポジウムでもそうであった。「薬物使用者の等身大の理解とその対応~今なにが起きているのか、医療者や支援者は何ができるのかを考える」では、企画者やシンポジスト、フロアの参加者たちが使用者を含めさまざまな立場の方たちの取り組みを共有し、これからも取り組み続けていこうと語られ、「はじめまして」を感じた。

アディクションは、HIV感染と同じく、治療や健康状態に関わるのみならず、お金の支出や生活・仕事や通学、人とのつき合いや性交渉、他人や自分への信頼感の揺らぎなど、多岐にわたる相互作用が生じると考えられる。背景やその結果もいろいろある。そのような事態にすっぱりとはまってしまった人・自分? がいたら…。今学会では、使用者も支援者もできることはなになのかと、活発に話し合いや情報交換がなされていた。会場係をされていた運営会社の社員の方も陶醉することについて私に語りかけて下さったりもした。いい意味で波紋をよんでいたのだろう。

アディクションは薬物だけではない。買い物やインターネット、セックスなどや、複数持ち合わせたりすることもある。あれ、これって自分にも当てはまるかもと思われる方もおられるかもしれない。そんな「はじめまして」もあるかもしれない。学会が終わっても、生活や支援は続く。関係を築くことと依存することの違いはどこにあるのだろうか。頭の片隅で思いつつ、生きることを支えるいろんな資源(支援)があちこちで息の長い活動となればと思う。アディクションもいろいろある。支援もいろいろあっていい。

## 「社会予防の取り組みを軽視してはいけない」

大河りりい(関西エイズ対策協議会)

今回の学術集会では、シンポジウム「個別施策層へのエイズ対策」の演者の1人として、以下のような内容をお話しました。1点目は、厚生労働省による事業費削減を受

けて、「akta」や「dista」をはじめとする HIV 予防啓発活動のための拠点が存続の危機に追いやられている「MSM（男性とセックスする男性）への取組み」について。2点目は、「性風俗産業従事者」としてエイズ予防指針の個別施策層に含まれているにも関わらず、事業費や研究費がなく、実態やニーズがほとんど明らかになっていない「セックスワーカーへの取組み」について。3点目は、個別施策層にすら含まれず、日本のエイズ対策においてほぼ存在が無視されている「トランスジェンダー（出生時に割り当てられた性別を越境する存在）への取組み」についてです。

エイズ対策において、脆弱な環境に置かれている人々のニーズをすくい上げ、さらに必要なかたちで必要な資源を届ける上記のような取組みというのは、そもそも実証主義的科学観に基づくデータで必要性や成果を示すことが困難なため、過小評価されがちです。今回の学術集会でも、こうした社会予防の取組みが評価されたり、注目されている印象はありませんでした。

そのため、今後も、日本エイズ学会になどで、社会予防の取組みや、その重要性について、もっとアピールしていきたいと考えています。

### 「大学生がみたエイズ学会」

山中京子（大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類）

今回エイズ学会が大阪で開催されたため、自分の教える大学の学部3回生のゼミ活動として学会に参加することとなった。このゼミでは HIV/AIDS に特に強い関心を持つ学生が集まっている訳ではない。しかし、若い世代に自分たちの世代の問題として HIV/AIDS を身近にとらえてほしい、基礎、臨床、社会分野が入りまじり、医師を始めとする専門職と様々な立場の当事者が共に参加す

る多様で複雑なこの学会独特の雰囲気を感じてほしいとの教員の思いに学生が応える形で参加が決まった。

多くの学生が参加したプログラムの一つはメモリアルサービスである。今年のメモリアルサービスは大きな会場で多くの参加者があった。学生の感想は亡くなった人々を思い出し生じる寂しさ、痛み、懐かしさ、申し訳なさなどここに生き、HIV/AIDS に関わり続けようとする一生懸命さや静かな決意のようなものとの両方を感じ、「科学的」な研究の場の足元にこれらが息づいていることを感じ取る貴重な体験だったとのことであった。

スカラシップ委員会企画「薬害エイズ事件の教訓からいまを振り返る」やシンポ「抗HIV薬の移り変わりから未来を考える」では、自分たちが生まれる前に起こりいままでもまったく知らなかった HIV/AIDS の歴史の事実に驚きと憤りを感じもつと歴史を知る必要性を痛感し、シンポ「HIV感染症における社会的排除」と「個別施策層へのエイズ対策」では、机上で学んできた「社会的排除」という概念の HIV/AIDS における実態を目の当たりにし、その解決への地道な試みに心を揺さぶられる一方で、「社会的排除」のさらなる解決の実現への困難さも実感していた。また、カウンセリングの口頭発表の事例報告で HIV陽性者が抱く思いや考えを初めてしっかり理解できたと語る学生もあった。

最後に一言自分自身の感想を述べたい。社会系のプログラムが一定充実していたと思う。そのうちでもシンポ「HIVに関する社会・人文科学的研究の活性化に向けて」は今後も継続してもらいたいテーマである。今後は日本においていままでも HIV/AIDS に直接強い関連や関心がなかった学問領域からも研究者を招へいし、議論を深めてほしいと願う。

## ネスト・プログラム

11月8日に行われた第5回ピア+トーク「恋愛とカミングアウト」、10月25日に第1回目が始まった「ミックス・トーク10 (MT10)」、そしてトークサロン「看護師として働く陽性者のミーティング」より、スピーカーや参加者の感想文をお届けします。

### 第5回 ピア+トーク 「HIV陽性者の恋愛とカミングアウト」

さまざまな経験をもつ HIV陽性者をスピーカーに迎えてお話を聞くピア+トークでは、これまでに障害枠での就職、薬物などの依存からの回復経験、妊娠・出産、アンチエイジングなどがテーマになりました。

第5回は「恋愛とカミングアウト」。ヘテロ（異性愛）女性や男性、ゲイ男性の HIV陽性者、カミングアウトされたパートナーなど多様なスピーカーをお迎えして行われました。

スピーカー5名、参加者35名の中から各3名の感想文をお届けします。

### スピーカーより

#### 「それぞれのモノサシ」 ゆき

（初参加／告知年 1998年くらい／服薬歴 告知以降ずっと／40代／女性&異性愛）

この会で一番実感したのは、陽性者を取り巻く色々な立場・考えの人がいるということでした。スピーカー5人の中だけでも、陽性の異性愛・同性愛者、陰性の同性愛者なおかつ患者ではない人と多種多様で、各々が各々の経験してきた思いを胸にして、今を生活しているのです。

私はスピーカーとしてお話する立場でしたが、反対に「病気の話は人に言えない」と悩んでいる方がいるのも改めて認識させられました。私は、周りに何人か話せる人がいて気持ち的には楽ですが、話したくても話せない陽性者が

いるなら辛い思いをしてるでしょうし、胸が痛みます。陽性者だからといって、もしかすると苦しみを乗り越えて辛くない人もいるかもしれないし、又は苦しみの真っ只中にある人がいるかもしれない。

改めて、みんなのモノサシは全然違うと痛感しました。そして、それをちゃんと理解出来て人の痛みがわかる自分でありたいと思いました。

### 「久々にネストの活動に参加して…」 E

(初参加/感染告知2009年/服薬歴約5年/40代/男性/ゲイ)

ネスト・プログラムの某ミーティングに参加してみようと思ったのが今年の10月。利用登録が必要なことを知り、その面談の際に突然スピーカーの依頼を受けました。

実は数年前に「新陽性者PGM」に参加したことがぶれいす東京との初めての関わりです。当時は情報を集めることや、陽性者と繋がろうと必死だった気がします。その反面、その会に参加するごとに、周りの方と考え方のズレが僕の中で生じていました。全日程が終了し巣立ちの時を迎え、僕は陽性者であることに何の不安も持たず、これまでと変わらず楽しく過ごすことを決めました、もちろん陽性者であることを受け入れてもらえたらと…。

友人や家族へのカミングアウト、陽性者同士の恋愛、陰性者との恋愛もしました。フリーの時には進むべき道を外しそうになったことも…。そんな時、なんでも話を聞いてくれたカミングアウト済みの友人の存在は大きかったです。

また、他のスピーカーさんの意見も聞くことができたのは、今を自由に過ごしている僕に改めて良い教訓となりました。

僕がこれまで体験したことを上手に伝えることができるか、参加してくれた皆さんがどう受け取ってくれるか、当日まで不安ではありましたが、スピーカーとして参加させていただいたことで、ぶれいす東京へ少しでも恩返しができたらと思います。この度は貴重な体験をさせていただき、スタッフの皆様本当にありがとうございました。

(追伸)僕の経験は正しいのか間違っているのかわかりません。なので参加された皆さんの判断で良いと思ってます。起きてしまったことは仕方ない、僕は後悔しないよう楽しく過ごすことだと思ってます。

### 「大切な人を守って欲しい」 リュウ

(初参加/陰性パートナー/40代/男性/ゲイ)

私は年下の相方と付き合って10年になります。とても大切な相方です。相方の感染が判明したのは5年前、拠点病院でHIVによる肺炎と診断されました。当時の私に知識はなく、HIV=死という認識でした。相方の家に見舞いに行った際、痩せ細った相方の姿を見て、時間が限られているなら一日でも長く一緒にいたいと思い、それを機に同棲することにしました。

私は心配性なので、毎日の服薬や検査結果の管理は私がしています。ファシリテーターさん曰く、私は「お母さん」。言われてみればそうかも(笑) 服薬を始めると順調に回復し、最初は一桁だったCD4も500程度にまでなり、今では私よりも元気なくらいです。医療の進歩に感謝!

今回、大勢の方の前で話すとあって最初は緊張しましたが、参加者の皆様が温かく見守って下さり、調子に乗ってノロケ話をさせて頂きました(笑) 皆様のご参考になったのか不安は残りますが、相方との恋愛話や、陰性パートナー

という立場でHIVとどう向き合ってきたのか、精一杯お話しさせて頂きました。大切な人が既にいる方も、これから大切な人に出会いたいという方も、誠意をもって対応し、自分なりのカタチで大切な人を守って欲しいなと思います。

### 参加者より

#### 「言い訳にはいけない」 トモ

(初参加/感染告知2012年/服薬歴2年/30代/男性/ゲイ)

感染、発症から2年。最近ではすっかり普段通りの生活に戻って過ごしていますが、その間ずっと恋愛できずにいきました。自分では気にしていないつもりでも、どこかで気持ちに蓋をしていたのかもしれない。

そんな僕も最近、片思いではあるけど本気で想える人と出会い、久しぶりに恋愛の気持ちを思い出させてもらいました。でももし進展した時、自分は彼にどう伝えられるんだろう。不安に思っていた時にちょうどトークイベント開催を知り、参加してみました。

ゲストの皆さんからのお話は、セクシャリティ、感染有無問わず、とても参考になるものでした。

まず、病気を受け入れてくれる人はちゃんと存在する、ということ。僕も、恋愛していいんだ。受け入れてくれて、思い合える人がいるのかもしれない。感染以来ずっと恋愛できていない僕にとっては、正直実感がないことだけど。皆さんの経験談や感想を聞くうちに、気が楽になりました。

また、想う気持ちがあれば病気の問題なんて大した問題ではない、ということ。HIVのカミングアウトはお互いの通過点であって、その先の付き合いを充実させていく事の方が、より重要なんだと思いました。

恋愛から距離が出来てしまった原因が、シンプルに自分の行動不足なんだと気付かされた今。病気を言い訳にはいけないんだな、と。行動し、それぞれの恋愛を経験されてきた5人のゲストの皆さんは、やっぱり魅力的に見えました。

#### 「経験談を聞けて」 yuka

(初参加/陽性告知10年目/服薬歴4年目/30代/女性/異性愛)

私は今回初めて勉強会に参加させてもらいました。ゲストの方をはじめ話を聞きに来ている方の多さに驚きました。特に為になった事は、パートナーが陽性で自分が陰性の方のお話を聞いたこと。

私自身結婚してパートナーがいて子供もいる為、相手がどのように考えているのかとても気になっていました。一緒に暮らしている環境でどのように対処しているか。しかもこの病気を知っているのはパートナーだけで両親は知りません。頼れるのはパートナーだけなので色々不安、負担になっていないか気になります。実際そういう方の話を身近に聞いたのでとても勉強になりました。

もちろん今現在お付き合いされている方、婚活中の方のお話も自分に置き換えて聞いていました。もし、私が独身であったらどのように過ごしてたかなあ…相手にはどのようにカミングアウトするかな…と。色々深い話まで聞くことができてとても良かったです。また参加したいと思っています。ありがとうございました。

#### 「一人ではない。」 ヒデトシ

(初参加/陽性告知2007年/服薬歴7年/30代/男/ゲイ)

こういった類のトークセッションは初参加だったのでと

ても緊張するとともに、新鮮だった。まず会場に行って参加者の人数が自分の予想していたものよりも多かったこと。こんなに陽性者はいるのかと、少し驚いた。

それまですべて自分の中だけの問題として一人で悩んできたので、同じような状況の人が他にもいると知ることは大きな支えとなった。そしてパネラーの方々の話も実体験に基づいたリアルなお話ばかりで、とても刺激になるとともに大変興味深かった。

特に陰性者の方々からのお話というのは、陽性者としての視点しかなかった自分としては意外なものだった。普段陰性者からはきっとこんな風に見られているんだろうなという勝手な妄想があったが、それが払しょくされるほど意外なお話が聞けてとても驚きであった。

これまで一人で悩んできたが、こういった同じ立場の仲間が同じような悩みを抱えて、共有する場があるというのは大変励みになると強く感じた。全体を通じて罪悪感、不安、絶望、希望など様々な感情を感じた。これからも一人だけで悩むのではなく積極的にこういった場に参加していければと思った。

## 第1回

### ミックス・トーク10(MT10)

年代や性別、セクシュアリティといった枠を越えて、さまざまな人と少人数で話したい…という要望にお応えするために新たに始まったプログラム。先着10名で開催し、定員になった場合にはキャンセル待ちとなります。二人の陽性者ボランティアスタッフが進行役を担当。普段なかなか密に接する機会のない方同士が、和やかにじっくり話せる場になっています。

## 参加者より

### 「ほっこり」 ヨウヘイ

(30代/男/ゲイ/初参加/感染告知2011年/服薬歴2年半)

ネスト・プログラムのミーティングに参加するのは、「ミックス・トーク10」で2回目ということで会場に入るまでは、あがり症な私は緊張で心臓が爆発しそうでした。

私は病気の告知から投薬などのプロセスは淡々と進んで来たものの、あまり向き合ってきたとは思えません。最近になり他の当事者がどの様に病気と生きているのか、話しを聞きたくなり参加に至りました。

開始早々、話しを聞く中で、自分では疑問に思わなかった事が多くあることに気づかされました。2班に分かれ「家族」と「カミングアウト」という2つのテーマが決まり、分かち合いが進んで行きました。初の試みの10人という人数制限のおかげで、私は自分が話す時間を気にはするものの、しっかり話せるだけの時間の尺がありました。そして、他の全員の話しもしっかり聞くことができ、テーマについて違う角度でより深く考えを思いめぐらせるきっかけを貰うことが出来ました。終盤では処理速度の遅い私の脳みそは、周りの話しを聞くので精いっぱいになってしまいましたが、参加した甲斐があったなあ〜と帰り道はほっこりした気分でした。

本当にありがとうございました。また参加させてください〜い。

## 「様々な年代・セクシュアリティとの交流」 K.K

(告知2014年/服薬歴4ヶ月/ゲイ)

普段はU40に参加していたのですが、今回年代、セクシュアリティなど関係無く誰でも参加できるMT10が開催されると聞き、思い切って参加させていただきました。

普段はなかなか交流できない年代の方やヘテロセクシャルの方のお話や悩みなども聞くことが出来て大変参考になりました。

やはり、同じ病気を抱えていると言う共通点があるのが年代・セクシュアリティは違えども、感じている悩みは同じなのだなと言うのがとても印象に残っています。

また、途中から5人と5人に分かれて話をする機会を作ってください、普段なかなか発言する機会や勇気が無い人でも気軽に話が出来ました。話をする事で自分のモヤモヤや疑問、悩みを少し解放できて、また次の機会を楽しみにしています !!

## トークサロン

### 「看護師として働く陽性者のミーティング」

同じような境遇・立場にいる看護師の陽性者同士で話ができる場が欲しいとの思いから2013年1月に始まったこのミーティングは、2か月に1回ほどのペースで開催され約2年が経ちました。

今回は、初めてこのミーティングに参加した看護師の陽性者からの感想文をお届けします。

## 「これからも看護師として生きていく」

どさんこ7年目ナース

(20代/男性/初参加/陽性2年目/服薬7ヶ月)

参加するまでに1年かかった。それまでは病気についての勉強や、家族・友人・職場への告知、治療への準備、身体障害者・更生医療の手続きなど、わりと忙しくしていた。そして悩んでいた。

『俺は看護師としてやっていっていいのか』

親から仕事についての疑問をぶつけられるものの、うまく答えられず、職場へは陽性ということや勤務変更や部署移動も検討するというが、返事もなく仕事内容も以前と同じ状態。自分の中でこれからどうしていけばいいのか悩み、もがいていた。

そこで、俺と同じ境遇にいるであろう看護師はどのように生きているのかが気になってPCで検索すると、このサイトに辿り着いた。プログラム参加の際は、自分の疑問をぶつけることが多くなってしまったが、みんな優しく俺の疑問に答えてくれた。話を聞いていくと、みんな病気を抱えながらも一生懸命仕事をしながら前に進んでいることが分かった。自分は病気を言い訳にしていたような気がしてとても反省した。

これからは周りがどうしてくれるのかではなく、自分が何をしたいのかをしっかりと考えながら働いていこうと思ったし、HIV陽性だからといって、看護師でいることが間違いだなんて誰も言ってない！！ 障害を作っていたのはむしろ自分の方だった。だからこれからも看護師を続けていく。看護師として、それだけでなく人間としてしっかりと前を向いて生きていこうと思った。

# 部門報告

## (2014年10～12月)



### ホットライン

HIV/エイズ電話相談(ぶれいす東京および東京都委託)

#### ホットライン部門・活動状況 ( )内は出席人数

##### スタッフミーティング

10月(9名) 11月中止 12月中止

世話人会：開催せず

東京都電話相談連絡会

10/10(3名) 11/14(3名) 12/12(3名)

#### 相談実績報告

##### —ぶれいす東京HIV/エイズ電話相談—

	10月	11月	12月
日数(日)	4	5	4
総時間(時間)	16	20	16
相談員数(延べ)	4.0	5.0	4.0
相談件数(件)	41	36	26
うち(男性)	32	32	24
(女性)	9	4	2
(不明)	0	0	0
陽性者相談	1	1	1
要確認相談	0	0	0
1日平均(件)	10.3	7.2	6.5

##### —東京都HIV/エイズ電話相談(夜間・休日)—[委託]

	10月	11月	12月
日数(日)	13	14	12
総時間(時間)	39	42	36
相談員数(延べ)	32	30	24
相談件数(件)	242	235	188
うち(男性)	170	172	133
(女性)	72	62	55
(不明)	0	1	0
陽性者相談	6	3	6
要確認相談	1	2	0
1日平均(件)	18.6	16.8	15.7

東京都の件数は多めに推移したが、12月は低調だった。ぶれいす東京は、全体的に件数が少なめだった。11月の新人研修は、私の体調不良が続いたため、世話人が中心となって行ってくれた。人員が不足しているため、今年の新人のデビューが待ち遠しい。(報告：佐藤)



### バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

#### バディ担当者ミーティング(10-12月実績)

10/2 :中止 10/16 :5名  
11/1 :3名 11/21 :6名  
12/4 :中止 12/18 :5名

※ 個別ミーティング 6件

#### 利用者数

11カ所の医療機関に通院中の18名の方などに22名のバディスタッフを派遣

#### 活動内容(2014年12月末現在)

派遣継続中	18件
在宅訪問	17件
病室訪問	1件
派遣休止	5件

#### 10月～12月中の動き

- ・新規派遣・相談 1件
- ・派遣休止 0件
- ・派遣調整 17件

#### 今後のミーティング日程

午前ミーティング:

偶数月第1木曜 11:00/奇数月第1土曜 11:00

2/5(木) 3/7(土) 4/2(木)

※木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。

午後ミーティング:毎月 第3木曜 19:00

2/19(木) 3/19(木) 4/16(木)

#### バディの現場から

新規派遣の相談が1件ありました。病院のソーシャルワーカーからの相談で入院中の方の話し相手として依頼を受けて派遣を開始しています。また、以前は杖使用で外出の付き添いだったケースが、車椅子での外出介助になるなど、依頼者の変化でバディの活動も変化するケースもでてきています。(報告：牧原)



### ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

#### ネスト・プログラム参加状況(2014年10-12月)

##### グループ・ミーティング

- ・新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)

第75期(参加者7名)

10/4 10/18 11/1(修了)

第76期(参加者7名)

10/16 10/30 11/13 11/27(修了)

第77期(参加者5名)

11/15 11/29 12/14 12/27(修了)

- ・ミドル・ミーティング

10/11(25名) 11/8(24名) 12/13(26名)

- ・異性愛者のための交流ミーティング

10/17(10名、ピア・ファシリテーター2名)

11/22(16名、2名) 12/19(15名、2名)

- ・陰性パートナー・ミーティング

10/4(9名) 12/6(9名)

- ・もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会)

12/10(3名)

#### 学習会

- ・ストレス・マネジメント講座第23期

10/28(7名) 12/16(5名)

- ・ベーシック講座「社会福祉制度の基本のキ」

11/26(3名)

#### トークサロン

- ・就職活動を報告しあう会

10/18(7名) 11/19(6名) 12/13(7名)

- ・介護職として働く陽性者のミーティング

10/21(10名) 12/8(10名)

・看護師として働く陽性者のミーティング 11/22 (7名)

### 年末パーティー

・年末パーティー 12/20 (55名)

### ミーティング (陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング  
第75期振り返り 11/12 (6名、6名)  
第76期振り返り 12/10 (6名、6名)

・web NEST運営委員会  
10/20 (2名、2名) 12/15 (2名、2名)

### ピア・ファシリテーターによるプログラム等 (厚生労働省委託事業)

・U40 (アンダー・フォーティ)ミーティング  
～10代から30代の男性HIV陽性者のミーティング～  
10/22 (参加者2名、ピア・ファシリテーター1名)  
11/20 (6名、2名) 12/22 (10名、1名)  
・ピア+トーク第5回「恋愛とカミングアウト」  
11/8 (ゲスト・スピーカー5名、参加者35名)  
・ミックス・トーク10 (MT10) NEW!  
10/25 (参加者8名、ピア・ファシリテーター2名)  
・ネスト・プログラム スタッフ研修  
11/9 (講師2名、参加者9名、スタッフ1名)  
・セクレタリー (13回 16名)  
・ピア・ファシリテーター (7回 13名)

### ネスト・ニュースレター

10/2 : 10月号発行 11/6 : 11月号発行  
11/27 : 12月号発行

少人数でじっくり話したいという要望から、新しいプログラム「ミックス・トーク10 (略称MT10)」がうまれました。ネスト・プログラムのスタッフ研修を修了した陽性者が司会進行をつとめます。詳しくは5ページをご覧ください。

(報告 : 佐藤/加藤/はらだ)



## Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.org/>

### Gay Friends for AIDS 電話相談

10月 : 8件 (1日平均2.00件)  
11月 : 6件 (1日平均1.20件)  
12月 : 5件 (1日平均1.25件)

### 聴覚障がい者向けのメール相談対応

10月 : 0件 11月 : 0件 12月 : 0件

### 「QOGL vol.5」、3月1日開催です

今回のQOGL、テーマは「ボディメイク」です！痩せたい、太りたい、脂肪は減らしたいが痩せたくない、マッチョ方向で体を大きくしたいなどなど、「カラダの理想」は人それぞれあると思います。HIV陽性の方だと主治医の先生から生活習慣病対策を言われがちかと思いますが、どうせならもう一歩進んで、理想の体づくりを考えてみませんか？

イベント詳細は決まり次第Webサイトやブログ、Twitter、Facebook などでお知らせします。

(報告 : sakura)



## HIV陽性者への相談サービス

### 相談実績 2014年10～12月

	10月	11月	12月
電話による相談	121	87	98
対面による相談	61	58	70
E-mailによる相談等	147	152	137
うち新規相談	36	28	36

※メール新規は含まず

### 10～12月の新規相談者の属性 (N=100)

陽性者 : 66人 (男性 : 63 女性 : 3)  
パートナー : 9人 (男性 : 8 女性 : 1)  
家族 : 6人 (男性 : 2 女性 : 4)  
専門家 : 11人 (男性 : 6 女性 : 5)  
判定保留 : 3人 (男性 : 3 女性 : 0)  
その他 : 5人 (男性 : 3 女性 : 2)

### 10～12月新規相談者の情報源 (N=100 複数回答あり)

WEB (PC/携帯サイト含) : 42件  
以前から知っていた : 11件  
医療関係 (Dr.、Ns.、MSW、クリニックなど) : 9件  
人的ネットワーク (家族、本人、パートナー他) : 9件  
電話相談 : 8件  
冊子/パンフレット/NL : 7件  
他陽性者 : 5件  
カウンセラー : 2件  
保健所/検査所 : 2件  
障害者職業センター : 1件  
チャレンジネット : 1件  
その他 : 1件  
不明 : 3件

### 10～12月新規相談の内容 (複数回答あり)

#### 【ぶれいす東京のサービス利用、積極的参加等】

・利用登録 ×23  
(PGM×6、異性愛×6、ピア+トーク×4、ミドル×2、U-40×1、陰性パートナー×2、年末パーティ×2)  
・LGBTのセクswーカーの人の支援

#### 【検査や告知に関する相談】

・同意がなかった検査で判明、医療従事者の対応への不満  
・(判定保留) 確認検査待ちの不安 ×2  
・(判定保留) 外国人、医療機関の情報、国外退去の不安

#### 【告知直後の漠然とした不安】〔東海、近畿、甲信越/北陸〕

・就労の継続、今後の就職活動 ×4  
・健康保険の使用、プライバシー不安 ×3  
・告知直後の不安や混乱×3

#### 【対人関係に関する相談】〔北海道/東北、東海、九州/沖縄〕

・今後の恋愛や結婚、子づくり、セックス ×3  
・コンドームが外れたsex相手とのトラブル  
・パートナーへの通知  
・他陽性者との交流  
・今後の人間関係の広げ方

#### 【生活に関する相談】〔九州/沖縄〕

・生命保険の加入や継続 ×3  
・外国人、服薬中での来日、障害者手帳の取得 ×2  
・マンション購入時の住宅ローン ×2  
・地方から上京して生活保護を受給したい  
・地方から上京してホームレス状態  
・猫を介しての家族への感染不安  
・医療系専門学校の学生、学校での献血の断り方  
・鍼灸の専門学校の継続  
・健康保険組合への通知の必要性  
・手帳取得時のプライバシー

#### 【就労に関する相談】〔東海、九州/沖縄〕

・海外での就労や海外出張 ×2  
・発症入院後の復職 ×2  
・就労の継続不安 ×2  
・就職時の健康診断の自己申告の書き方  
・介護職、職場への通知

- ・障害者枠を含めた就職活動
- ・今後の就労、自立生活

#### 【医療体制や受診に関する相談】〔北海道/東北、近畿〕

- ・医療従事者、地方での受診とプライバシー
- ・地方での他科受診、医療機関のかかり方
- ・外国人、来日後の医療機関の選択
- ・外国人、異性の主治医との話しにくさ
- ・胃カメラの検査はかかりつけがよかったのか

#### 【病気や病態の変化、服薬】〔九州/沖縄〕

- ・未服薬、通院中断中の不安
- ・RNA量の数字の見方
- ・体力や体調の自信のなさ
- ・服薬前の不安

#### 【心理や精神に関する問題】〔近畿、九州/沖縄〕

- ・精神疾患の治療や受診 ×3
- ・薬物依存との向き合い方

#### 【周囲の人からの相談】〔東海、九州/沖縄〕

##### <パートナー/配偶者>

- ・(パートナー)通知を受けての混乱、今後の付き合い方や対応、セックスなど ×3
- ・(パートナー)パートナーの家族との関係性
- ・(婚約者)通知した親の対処
- ・(配偶者)女性の相談員がいないか、妻の話し相手に

##### <家族(親、兄弟)/親戚>

- ・(きょうだい)亡くなった兄弟の生命保険の手続き
- ・(きょうだい)兄弟が発症で判明、家族の混乱
- ・(きょうだい)兄弟が判明、未通院、今後の治療について
- ・(家族)日常生活での感染不安、家族の検査
- ・(母親)息子のイベント参加や外出への不安
- ・(母親)息子の支援、自分も話せる所がなくてつらい

##### <その他>

- ・(友人)友人の医療系専門学校への進学や就労
- ・(友人)陽性の友人のスキンシップや性行動に不安
- ・(セクフレ)LINEで通知を受けたが連絡がとれない
- ・(元パートナー)元彼と同居中、発症でわかった彼の支援
- ・(判定保留のパートナー) PrEP(曝露前予防投与)や自分の感染について

##### <専門家>

- ・(弁護士)拘留中のクライアントの対応、上申書の相談 ×2
- ・(MSW)入院中の陽性者の食べ残しを食べた他入院患者の対処、病棟医師が混乱気味
- ・(MSW)外国人の方の服薬、制度利用
- ・(医療従事者)患者さんにここに電話するよういわれた
- ・(企業人事)社員から通知を受けての混乱、今後の対処
- ・(検察)陳述書の内容について
- ・(保健所)年末年始の相談対応について

- ・(企業保健師)復職する中で本人と産業医の噛み合わなさ
- ・(企業)就労支援をしたい
- ・(企業社員)何か自分が障害者の就労支援で手伝えることがないか

(報告：牧原/生島/福原)



## 研究・研修部門

### 研究事業

#### 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」

(研究代表者：樽井正義)

- ・12月3日～5日：第28回日本エイズ学会学術集会・総会に参加、班会議を開催(於 大阪国際会議場)。参加者7名。
- ・12月18日：「地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト」(<http://www.chiiki-shien.jp/>)にて「健康と生活に関する調査」報告書(A調査・B調査)を公開。

その他、研究成果物としてパンフレット「身近な人から薬物使用について相談されたら(仮)」の制作や、調査結果をまとめた投稿論文(和文、英文)の執筆を行っています。

### 研修事業

#### その他の講師派遣・研修

- ・10月4日：日本サイコオンコロジー学会にて講演。参加者60名。
- ・10月8日：日赤医療センター緩和ケア研究会にて講演。参加者26名。
- ・10月22日：アヴィ社イベントにて講演。参加者45名。
- ・11月4日：マイラン製薬株式会社にて講演。参加者9名。
- ・11月4日・11日：東京YMCA国際ホテル専門学校にて講義。参加者60名。
- ・11月6日：内閣府「東南アジア青年の船」ディスカッションプログラム“Health Education (Measures against HIV/AIDS)”の運営に協力。参加者39名。
- ・11月14日：四国4県「個別施策層へのエイズ予防対策研修会」にて講演。参加者37名。
- ・11月21日：akta「デリヘル勉強会」にて講演。参加者12名。
- ・11月25日：ヤンセンファーマ記者会見にて発言。参加者30名。
- ・12月9日：東京都エイズ予防月間講演会「働く世代に多いHIV/エイズ～ともに働くとき知っておきたいこと～」にて講演。参加者73名。

(報告：生島/牧原/大槻)

### 編集後記

- ・調身、調息、調心。(こんどう)
- ・世間に吹き荒れる自己責任論の嵐。HIV感染も、貧困も、暴力被害も、すべて自己責任なのだろうか。少なくとも、HIV感染を自己責任にしまうことは、HIV感染を不安に思う人たちを相談や検査から遠ざけてしまう。結果、社会全体の負担をも押し上げることになる。HIVは自分や周囲の大切な人たち、誰もが当事者になり得るということ、今だからこそ伝えていきたい。(いくしま)
- ・一年かけて掲載してきた「20周年記念巻頭シリーズ」が今号で完結。20年かけて培われてきた「ぶれいすっぽさ」が読み取れるシリーズになったかと。変わってはいけないものを守る頑固さと、変わらなければならぬものを大胆に変える勇気、このバランスは簡単なようで難しい。個人的にも人生の課題です。(やじま)

### 編集・発行：特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403  
TEL: 03-3361-8964 (月～土 12～19時 ※祝祭日を除く)  
FAX: 03-3361-8835  
E-mail: office@ptokyo.org

ぶれいす東京: <http://www.ptokyo.org/>  
Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.org/>  
web NEST: <http://web-nest.ptokyo.org/>  
Twitter @placetokyo (<http://twitter.com/placetokyo>)  
Facebook: <http://www.facebook.com/PLACETOKYO>